長野原町橋梁点検結果
（概要版）

長野原町　建設課

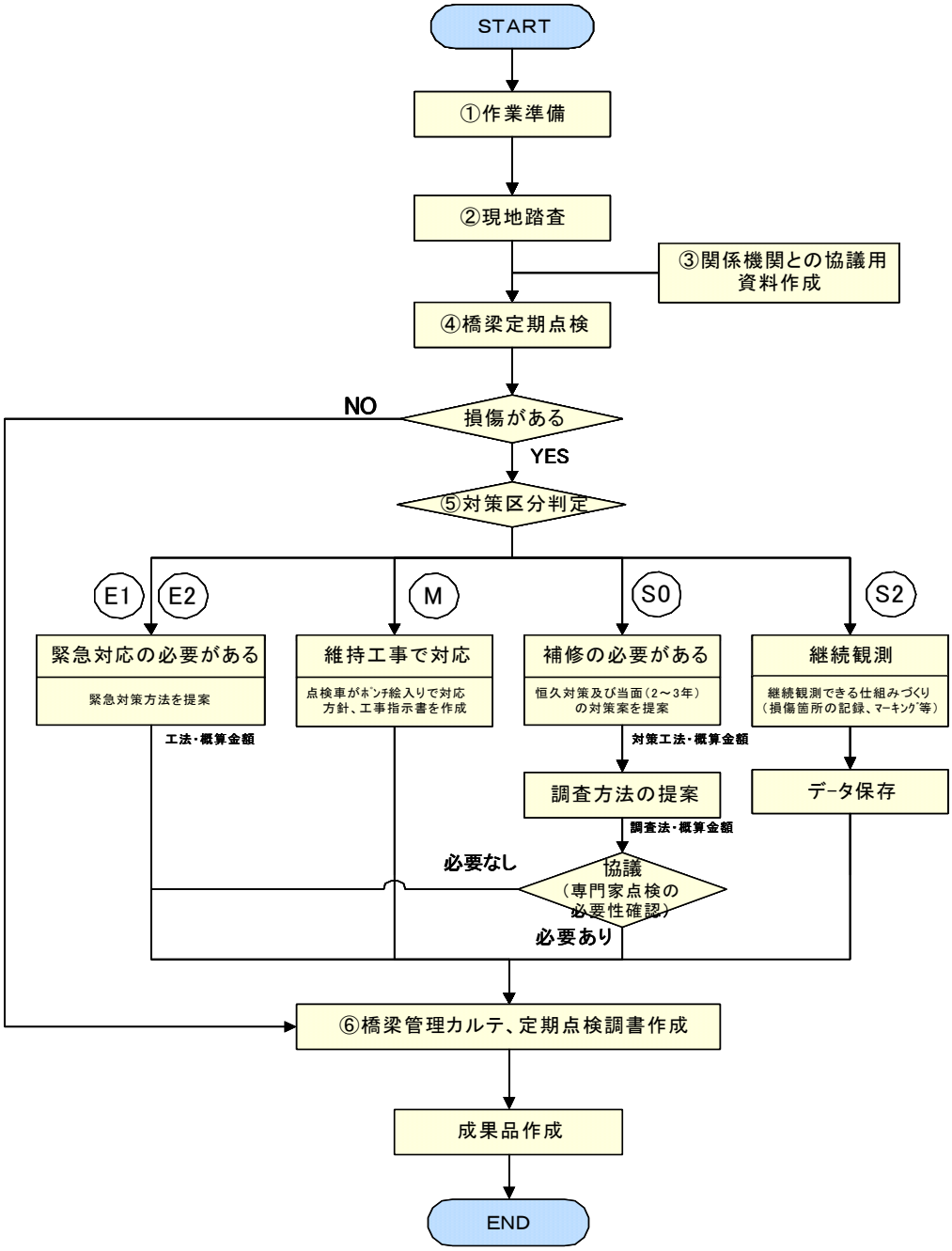
Ⅰ．点検概要及び点検方法について

長野原町では、平成１９年５月に国土交通省が創設した「長寿命化修繕計画策定事業」に基づき、管理する橋梁のうち５１橋（全体橋梁数８６橋）について、平成２１年度までに橋梁点検を実施した。

長寿命化計画とは、今後老朽化する道路橋の増大に対応し、従来の事後的な改修及び架け替えから予防的な修繕及び計画的な架け替えへと転換を図り、修繕や架け替えに要する費用を縮減することを目的とするものである。

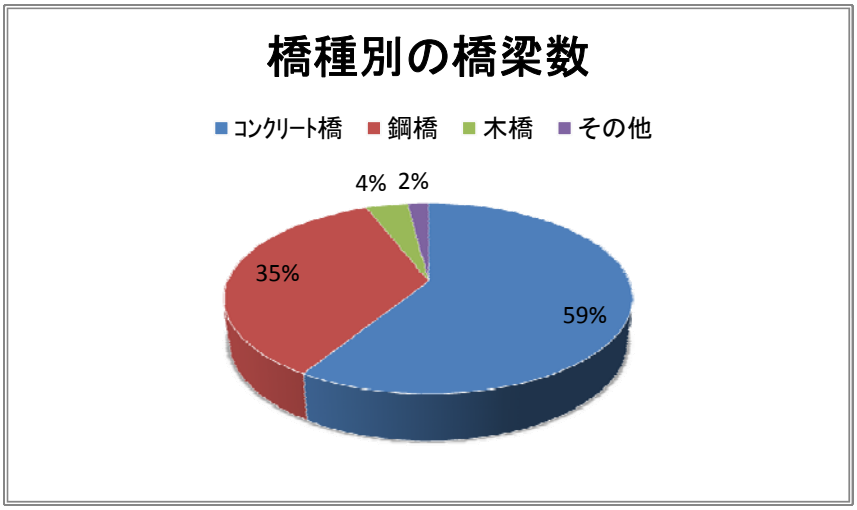
今後、この点検結果を基に、各橋梁ごとの修繕や架け替えの必要性を判断し、修繕内容、修繕時期、概略費用を検討し、長寿命化計画を策定する予定である。

※今回の調査の作業フォローを下記に示す。

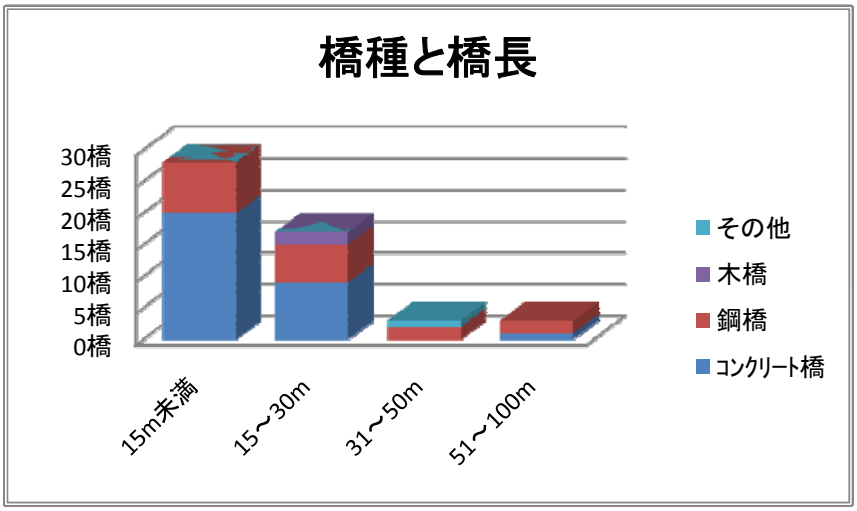


Ⅱ．点検した橋梁の概要

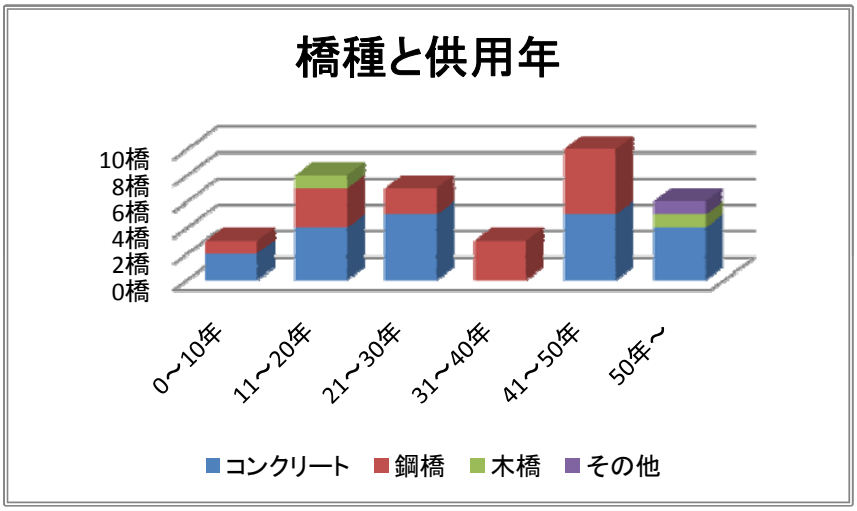
・点検した５１橋のうち、コンクリート橋は３０橋、鋼橋は１８橋、木橋は２橋、その他（吊り橋）は１橋であり、コンクリート橋が５９％、鋼橋が３５％を占めている。
・橋長は、１５ｍ未満が２９橋、１５～３０ｍが１６橋、３１～５０ｍが３橋、５０～１００ｍが３橋となっている。
・供用年は１０年以下の橋梁が３橋で、２０年以上の橋梁が約８割をしめている。さらに、供用年５０年を超える橋梁も６橋ある。
・なお、今回の点検において、水没予定地区及び近年に架け替えした橋梁については除外してある。



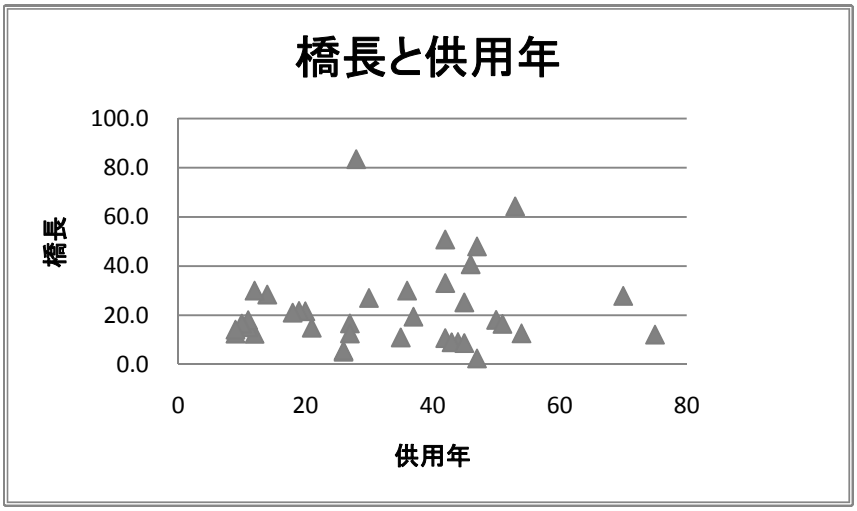
※今回点検した橋梁のうち、９５％以上が、コンクリート橋及び鋼橋で構成されている。
木橋及び吊り橋等は少数である。



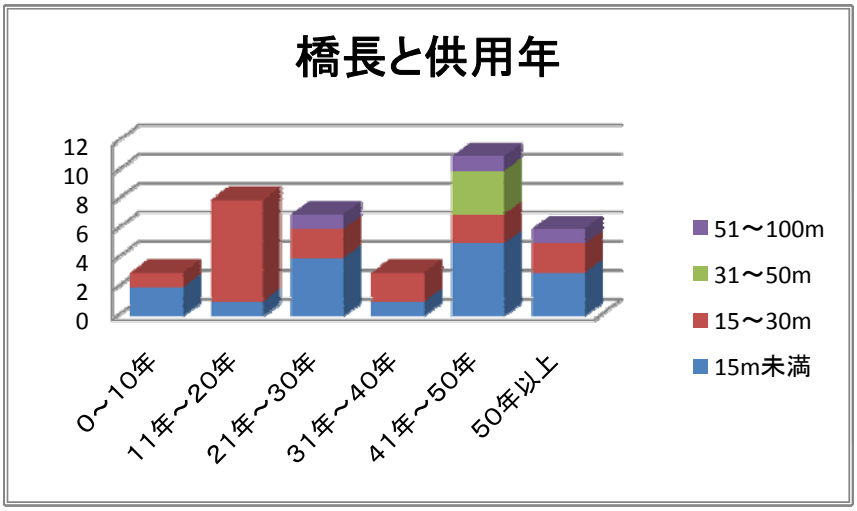
※全体の約５０％強が１５ｍ以下の橋梁と分類される。
１５ｍ以下の橋梁については、コンクリート橋の比重が多く、それ以上になると鋼橋の比重が高くなっている。



※供用年が４０年以上となる橋梁が多く見受けられる。４０年を超える橋梁のコンクリート橋と鋼橋の割合は同程度となっている。
供用後４０年～５０年の橋梁の割合が一番高くなっている。



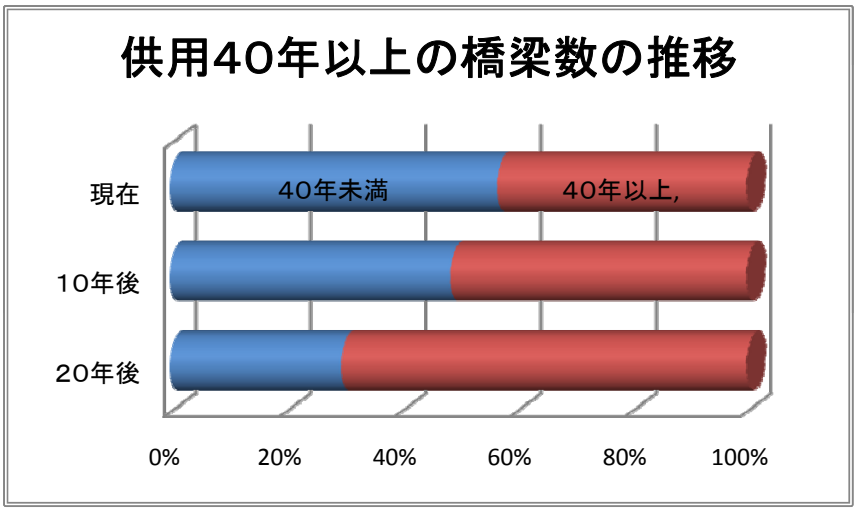
※供用年の分布において、供用後１０年付近及び４０年を超える部分多く建設されたことが見受けられる。



※供用年が４０年を超える橋梁が一番多く、そのうちコンクリート橋の割合が一番高い。

Ⅲ．供用４０年以上の橋梁数の推移

・供用４０年以上の橋梁は約５０％弱であるが、１０年後には５０％を超えて２０年後には、約８０％弱となる。



・供用後４０年以上となる橋梁の割合は１０年～２０年の間に、３０％近く増えている。橋梁の高齢化が見受けられる。

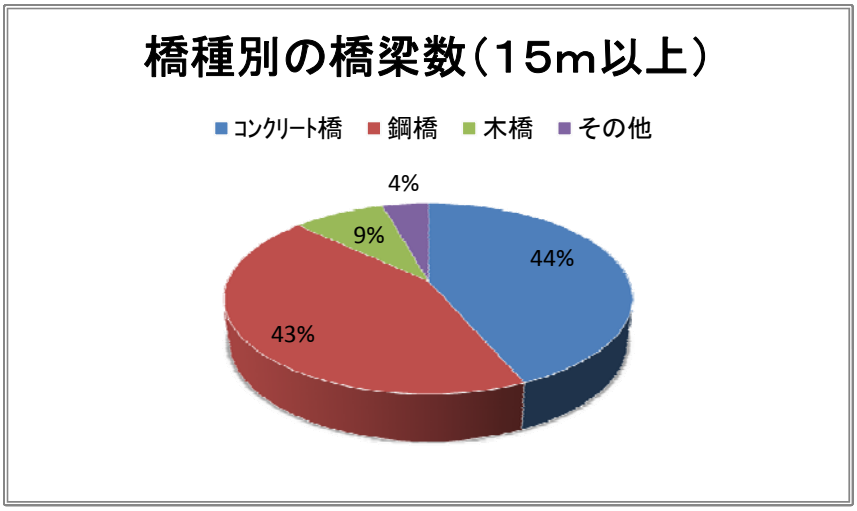
Ⅳ. 橋長15m以上の点検結果

・橋長１５ｍ以上の橋梁は、約９割をコンクリート橋及び鋼橋で占めている。

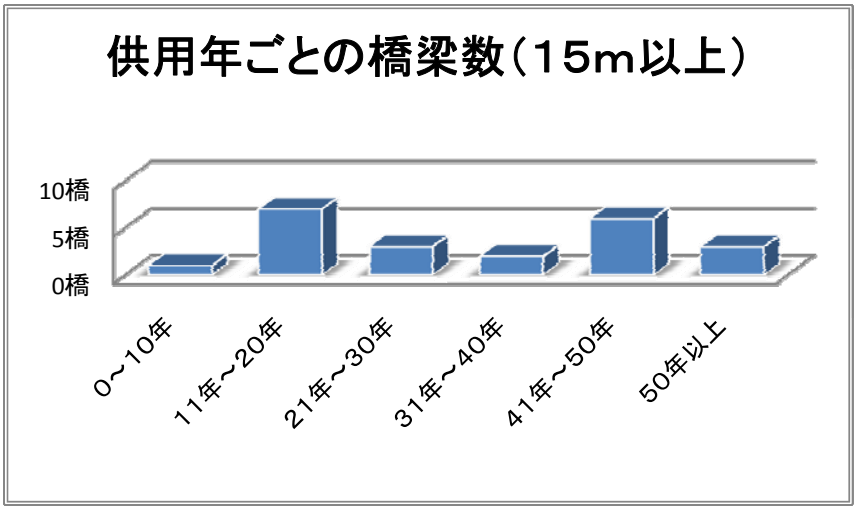
・供用年にばらつきがあるが、１０～２０年、４１～５０年の割合が高い。

・橋長１５ｍ以上に橋梁については、補修の必要がある橋梁が約４割である。また、緊急対応が必要な橋梁も１橋ある。

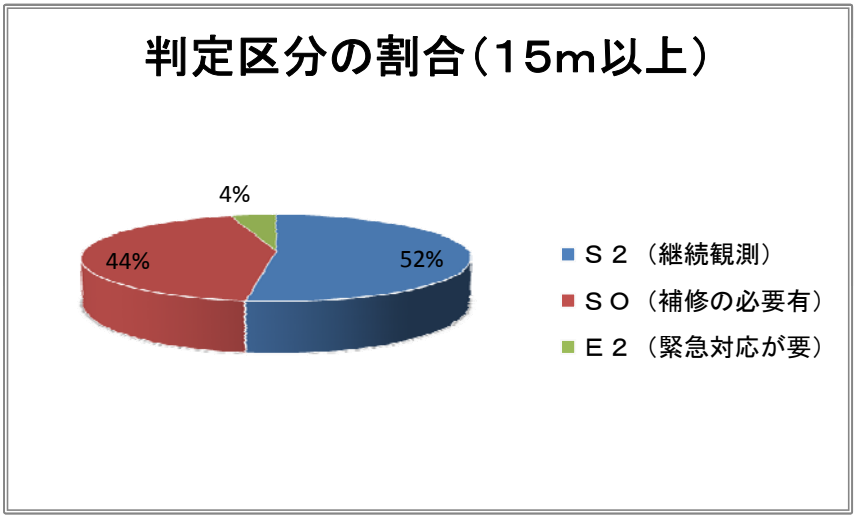
・供用年が３０年を超えると半数以上の橋梁に補修等の必要が生じてくる。



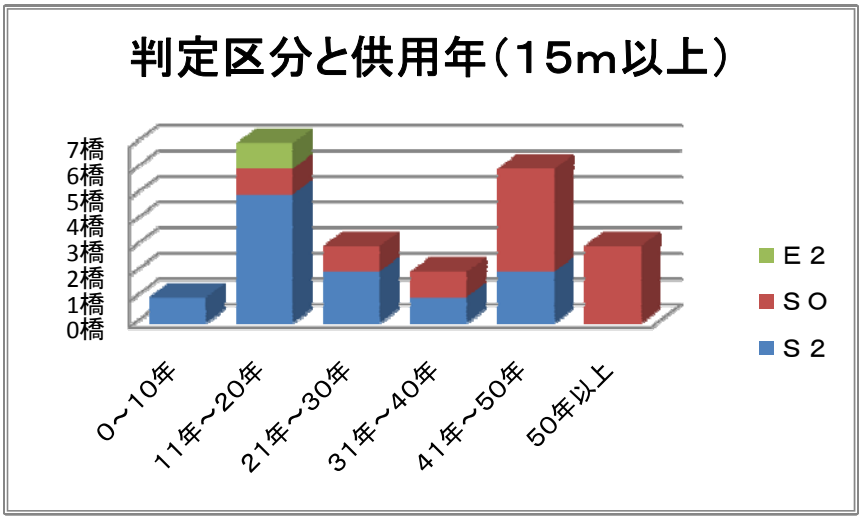
※１５ｍ以上の橋梁については、鋼橋の割合が約半分を占めている。コンクリート橋と鋼橋で約９割を占めている。



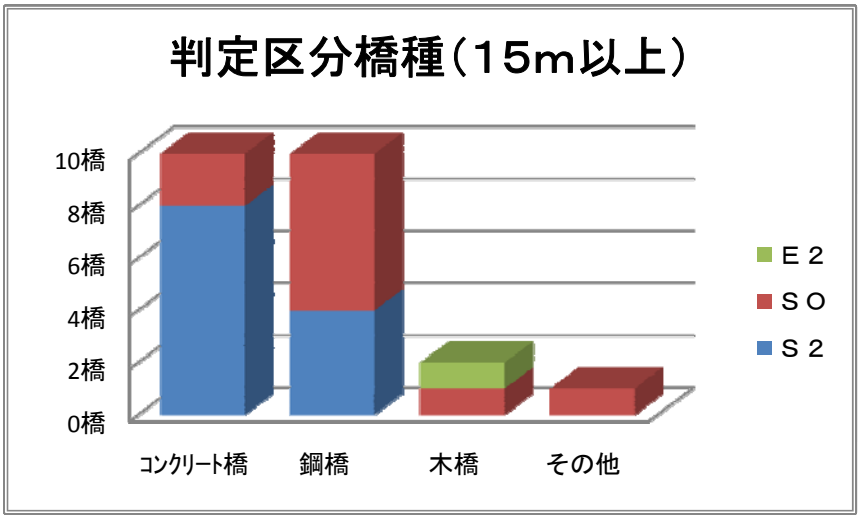
※供用年に多少ばらつきがある。１１～２０年の期間が一番多い。



※緊急対応（Ｅ２）のある橋梁がある。また、補修の必要がある橋梁も４０％近くある。



※供用年を３０年を超えると半数以上が補修の必要が生じてくる。



※コンクリート橋の約２割、鋼橋の約６割が補修等の必要がある。また、木橋及びその他（吊り橋）についてはすべて補修及び緊急対応が必要となっている。

Ⅳ. 橋長15m以下の点検結果

・橋長15m以上の橋梁は、約9割をコンクリート橋及び鋼橋で占めている。

・供用年にばらつきがあるが、10～20年、41～50年の割合が高い。

・橋長15m以上に橋梁については、補修の必要がある橋梁が約4割である。また、緊急対応が必要な橋梁も1橋ある。

・供用年が30年を超えると半数以上の橋梁に補修等の必要が生じてくる。